SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

静岡大学通信(19)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 道林, 克禎, 牛山, 素行 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024731

静岡大学通信（19）

3月に発生した未曾有の大地震と大津波，それによる被災は甚大で，改めて東海地震への対策の重要性を確認する事態となりました．静岡大学には，防災総合センターが設置されており，災害の専門家が様々な活動をしています．そこで，3月の大震災に対するセンターの取り組みについて，牛山素行准教授に寄稿していただきました．防災総合センターの詳細については，ホームページ（http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/sbosai/）等をご覧ください．

道林克禎（理学部）

東日本大震災に対する静岡大学防災総合センターの対応

3月11日に発生した「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」，およびこの地震によって生じた災害である「東日本大震災」は，わが国の様々な方面に大きな衝撃を与えつつある．静岡大学防災総合センターでは，今回の震災に関して「専門的な立場からの調査研究」を行うことを最大の目標としており，地震発生直後から各メンバーの専門性に応じて全力で調査研究活動を行っている．牛山素行専任准教授（災害情報学）は地震直後から避難行動，人的被害の特徴などについての解析，情報発信を続けており，4月に着任した原田賢治専任准教授（津波工学）は，既にたびたび現地調査を行い，津波の遡上高についての現地計測や再現計算などを行っている．小山真人併任教授は地震のメカニズムについての解析，解説などを発信している．これらの調査結果の速報を，4月16日に開催されたしずおか防災コンソーシアム主催「ふじのくに防災学講座」で，静岡県とも連携しつつ，報告している．また，センター専任教員，併任教員，客員教員らが，静岡県内の新聞・テレビ等は無論のこと，全国紙，全国ネットテレビなどのメディアにもたびたびコメントを寄せている．静岡県内では今回の震災を受けて，特に津波防災に対する関心が高まりつつあるようで，当センターにおいても既に複数の自治体等から相談を受け，対策委員会等のメンバーとして参画しつつある．「東日本大震災」は，いろいろな意味で現在進行中の災害であるとともに，想定されている東海地震をはじめとして，今後も日本列島ではさまざまな災害が発生することが懸念されている．静岡大学防災総合センターは，発足後まだ3年余の小さな組織であり，できることには限りがあるが，静岡地域を中心とした地域防災力向上に，学術的専門性を最大限に発揮する形で貢献していくことができればと考えている．

牛山素行（防災総合センター）